

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
 発行人：出版室長 小林 祖承
 〒520-0113大津市坂本4-6-2
 天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
 Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和4(2022)年6月1日 水曜日
 (毎月1日発行) 1部50円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



大樹孝啓天台座主猥下が 第二百五十八世の法燈をご継承



第二百五十八世天台座主に昨年11月22日にご上任された大樹孝啓探題大僧正の「傳燈相承式」が5月31日、比叡山延暦寺根本中堂において厳かに執り行われた。大樹座主猥下は、御本尊薬師如来と伝教大師以来の不滅の法燈のご宝前において傳燈相承譜に署名され、第二百五十八世の法燈を継承された。同日午後には、京都市内のホテルにおいて「傳燈相承披露の集い」が開催され、宗教界はじめ政財界など各界からの来賓約460名が出席し、大樹座主猥下に祝意が寄せられた。(4・5面に関連記事)

大樹新座主猥下は、午前10時過ぎに殿上輿に乗られて書院を出発。新緑の映える延暦寺境内を延暦寺一山らの出仕僧を伴い、根本中堂まで進まれた。

入堂された大樹座主猥下

御教え昂揚し 慈悲に溢れた社会を

傳燈相承式は、宗祖伝教大師以来受け継がれてきた教えを継承する儀式で、天台宗における最高の慶事とされる。

根本中堂中陣正面には祭壇が設けられ、左手には桓武天皇ご真影、右手の宗祖伝教大師ご真影の前に供えられた、八舌の鑰、勅封の鍵、五鈷、鉄散杖、一字金輪秘仏などの伝教大師ゆかりの秘法具や大乘戒伝授に欠かせない仏舎利なども、新猥下に継承された。

そして古式に則った儀式を修された大樹座主猥下は、諭示を発せられ、座主職に上

は御本尊に礼拝・登壇された。祝禱唄が堂内に響き巨るなか、第一世天台座主義真和尚から歴代座主猥下の署名が連なる「傳燈相承譜」にゆっくりと御名を記された。(写真)

任したお志を示された。

この後、阿部昌宏天台宗宗務総長が挨拶に立ち、「諭示において『我々はこの混迷する状況を傍観することなく、「忘己利他」「一隅を照らす」という宗祖伝教大師の高邁なる御教えを昂揚し、慈悲に溢れた社会を目指さなければなりません。』という力強いお言葉を賜りました。私も宗徒は、座主猥下の御心を旨とし、檀信徒の皆さまと共に宗祖のご誓願である浄仏国土建設に邁進すべく、心を新たに致しております」と述べ、法燈継承を祝した。

謹告

本号は『傳燈相承式』特集号とさせて頂きました。そのため、作成日程の関係上お手元に届くのが遅れましたことをお詫び申し上げます。

極微

ある友人がこんなことを話してくれました。重い病に罹った知人を見舞った時、別れ際に「結局、苦しみは本人しか分らないんや」とボツンとつぶやいたという。それが忘れられないと言ったのだ。見舞いや元気づけの言葉に感謝していた様子を見て少し安堵した気持ちになった後の言葉だけに、なんともいえない気持ちになったという▼「本人しか分らない」と言われると返す言葉がない。東日本大震災の時もそうだった。災害支援者と被災者の間にも、最終的には「本人しか分らない」という埋めがたい溝があったと思う。だから、安易かつ情緒的な「絆」ではなく、それを承知の上での支援・被支援の関係が構築されていった。「傾聴ボランティア」でも、基本的に「当事者ではないのだ」という「立場」も大切であったと聞く。その上での相手を思う気持ちが最も大事なことなのだ。その思いはきつと当事者に伝わるものだろう▼最近の出来事になるが、ロシアによるウクライナへの侵攻という事態でも同じである。悲惨な状況にあるウクライナの人々に対するストリートな同情心はとても大切だ。だが、いつも忘れてはならないことは「悲惨な状況のただ中にいる人の心」は「どこにあるのか」という問いを持ち続けることだ。そうでないと、当事者と離反する恐れが生じるのではないか。